

建設企業協議会協議事項

日時	令和7年8月21日(木)
	午前10時
場所	第四委員会室

○ 所管事項の報告について

- 1 令和6年度八戸市下水道事業会計決算の概要について
- 2 令和6年度八戸市立市民病院事業会計決算の概要について
- 3 八戸市立市民病院経営強化プランの達成状況について
- 4 八戸市立市民病院薬剤師奨学金返還資金貸付制度について
- 5 令和6年度八戸市自動車運送事業会計決算の概要について
- 6 八戸市自動車運送事業経営戦略の改定について
- 7 八戸市営バス一部路線の一日無料運行の実施について

令和6年度 八戸市下水道事業会計決算の概要について

1. 整備状況及び普及率

○整備状況（公共のみ）

区分	令和6年度整備	令和6年度末
処理区域面積	83 ha	4,000 ha
管きょ延長	13 km	964 km

【令和6年度 管きょ整備区域】
沢里、糠塚、河原木、田面木ほか

○普及率 72.6%（前年度比 1.6ポイント増 ※農業集落排水事業含む）

2. 収入状況

事業収益 71億5,130万円

（主な内訳）・下水道使用料 25億 155万円 ・他会計負担金 13億 577万円
・他会計補助金 8億5,925万円 ・長期前受金戻入 23億4,135万円

3. 支出状況

事業費 69億4,423万円

（主な内訳）・管きょ費 2億2,223万円 ・ポンプ場費 2億5,601万円
・処理場費 7億6,064万円 ・流域下水道維持管理負担金 3億6,537万円
・減価償却費 47億9,968万円

4. 収支 純損益

純利益 2億 708万円

消費税抜き（単位：千円、%）

	令和6年度 決算見込額(A)	令和5年度 決算額(B)	対前年度比較	
			増減額(A)-(B)	増減率
事業収益	7,151,303	6,970,064	181,239	2.6%
①営業収益	3,811,766	3,730,269	81,497	2.2%
うち 下水道使用料	2,501,549	2,481,566	19,983	0.8%
うち 他会計負担金	1,305,770	1,244,425	61,345	4.9%
②営業外収益	3,328,633	3,227,225	101,408	3.1%
うち 他会計補助金	859,245	794,634	64,611	8.1%
うち 長期前受金戻入	2,341,345	2,299,966	41,379	1.8%
③特別利益	10,904	12,570	△ 1,666	△13.3%
事業費	6,944,227	6,776,075	168,152	2.5%
④営業費用	6,601,918	6,389,573	212,345	3.3%
うち 管きょ費	222,234	214,932	7,302	3.4%
うち ポンプ場費	256,010	229,659	26,351	11.5%
うち 処理場費	760,635	692,922	67,713	9.8%
うち 流域下水道維持管理負担金	365,374	362,248	3,126	0.9%
うち 減価償却費	4,799,679	4,695,133	104,546	2.2%
⑤営業外費用	342,309	386,502	△ 44,193	△11.4%
営業損益（①-④）	△ 2,790,152	△ 2,659,304	△ 130,848	4.9%
経常損益（①+②-④-⑤）	196,172	181,419	14,753	8.1%
純損益（事業収益-事業費）	207,076	193,989	13,087	6.7%
未処分利益剰余金	972,615	765,539	207,076	27.0%

令和6年度八戸市立市民病院事業会計決算の概要について

1. 患者数の状況及び病床利用率

- | | | |
|---------------|------------------------------------|------------------------|
| ○ 延べ患者数の状況 | 入院 | 186,499人（前年度比 △2,672人） |
| | 外来 | 259,695人（前年度比 △5,844人） |
| ○ 病床利用率（一般病床） | 90.8%（前年度比 +2.9 [※] ポイント） | |

2. 収入状況

事業収益 237億909万円

(主な内訳) ・入院収益 153億6,930万円 ・外来収益 54億3,882万円

3. 支出状況

事業費 251億9,648万円

(主な内訳) ・給与費 118億3,363万円 ・材料費 67億8,110万円
・経費 37億6,959万円

4. 収支

純損失 14億8,738万円

(単位：千円、%)

	令和6年度 決算見込額(A)	令和5年度 決算額(B)	対前年度比較	
			増減額(A)－(B)	増減率
事業収益	23,709,094	24,166,881	△ 457,787	△ 1.9
①医業収益	21,760,961	21,812,987	△ 52,026	△ 0.2
うち入院収益	15,369,298	15,215,703	153,595	1.0
うち外来収益	5,438,824	5,563,736	△ 124,912	△ 2.2
②医業外収益	1,838,391	2,259,948	△ 421,557	△ 18.7
うち補助金	95,777	454,052	△ 358,275	△ 78.9
③特別利益	109,742	93,946	15,796	16.8
事業費	25,196,477	23,992,705	1,203,772	5.0
④医業費用	23,835,968	22,770,306	1,065,662	4.7
うち給与費	11,833,631	10,865,025	968,606	8.9
うち材料費	6,781,103	6,668,772	112,331	1.7
うち経費	3,769,589	3,681,026	88,563	2.4
⑤医業外費用	1,345,406	1,222,399	123,007	10.1
⑥特別損失	15,103	0	15,103	皆増
医業損益(①－④)	△ 2,075,007	△ 957,319	△ 1,117,688	△ 116.8
経常損益(①＋②－④－⑤)	△ 1,582,022	80,230	△ 1,662,252	△ 2,071.9
純損益(事業収益－事業費)	△ 1,487,383	174,176	△ 1,661,559	△ 954.0
未処分利益剰余金	1,112,484	2,599,867	△ 1,487,383	△ 57.2

八戸市立市民病院経営強化プランの達成状況について

- 市民病院では、総務省の「公立病院経営強化ガイドライン」に基づき、令和6年3月に【八戸市立市民病院経営強化プラン】を策定しました。
- プランの対象期間は令和5年度から9年度までの5年間です。
- 令和6年度における「経営の指標に係る主な数値目標」の達成状況は下表のとおりです。
- 全12項目のうち、目標を達成した項目は「入院診療単価」など2項目、概ね達成した項目は「経常収支比率」など10項目となりました。

経営の指標に係る主な数値目標	R6年度実績値	目標値	達成状況の評価
1 経常収支比率（％）	93.7	100.5	○
2 医業収支比率（％）	91.3	96.7	○
3 修正医業収支比率（％）	89.8	95.2	○
4 給与費 対修正医業収益比率（％）	55.3	51.0	○
5 材料費 対修正医業収益比率（％）	31.7	30.0	○
6 経費 対修正医業収益比率（％）	17.6	17.0	○
7 1日平均入院患者数（人/日）	511	540	○
8 1日平均外来患者数（人/日）	1,069	1,000	○
9 入院診療単価（円）	82,410	77,000	◎
10 外来診療単価（円）	20,943	23,000	○
11 一般病床利用率（％）	90.8	90.0	◎
12 平均在院日数（日）	13.1	12.5	○

※ 達成状況の評価基準について

- ◎ 目標を達成したもの（目標値の100%以上）
- 概ね達成したもの（目標値の90%～99%）
- △ 未達成で目標を下回っているもの（目標値の90%未満）

八戸市立市民病院薬剤師奨学金返還資金貸付制度について

1 趣旨

当院における薬剤師の確保及び定着の促進を図るため、奨学金を返還する者に対して、当該奨学金の返還を支援する資金を貸付けする制度を創設するもの。

2 制度の概要

対象者	貸付人数 (各年度)	貸付上限額	貸付期間
青森県病院薬剤師奨学金返還支援事業費補助金※の対象となる者 〔新採用〕 ※令和 7 年度新規事業で、県内医療機関等における薬剤師の確保及び定着を図るため、新たに県内の病院に就職した薬剤師に対して奨学金返還支援を行う病院の支援等を行うもの。	対象者 全 員	年額 120 万円 総額 720 万円	
上記以外で次の全てを満たす者 〔在職者等〕 ①市民病院に常勤として薬剤師の業務に従事し、在籍期間が 5 年以内である者 ②貸付対象奨学金（独立行政法人日本学生支援機構奨学金等）の返還を行っている者 ③貸付対象奨学金の返還を滞納していない者 ④別に貸付対象奨学金の返還支援を受けていない者	若干名	年額 60 万円 総額 360 万円	最 長 6 年間

3 実施期間

令和 7 年度から令和 12 年度までの 6 年間

令和6年度 八戸市自動車運送事業会計 決算の概要について

- 輸送実績について、営業走行距離は329万2千kmで、前年度に比べ5万7千km、1.7%の減となり、輸送人員は517万6千人で、前年度に比べ2万9千人、0.6%の増となりました。
- 収入の状況について、事業収益は15億1,651万円で、前年度に比べ8,026万円、5.0%の減となりました。うち、運送収益は前年度に比べ590万円、0.7%の増となり、営業外収益は一般会計補助金等の減により、前年度に比べ8,640万円、12.5%の減となりました。
- 支出の状況について、事業費は18億2,790万円で、前年度に比べ7,783万円、4.4%の増となりました。うち、人件費は給与改定等により、前年度に比べ1億3,636万円、12.8%の増となり、物件費は物価高騰の影響等により、前年度に比べ567万円、1.5%の増となりました。
- この結果、令和6年度は3億1,139万円の純損失を計上し、未処理欠損金は11億2,838万円となりました。

消費税抜き（単位：千円）

	令和6年度 決算見込額(A)	令和5年度 決算額(B)	対前年度比較	
			増減額(A)-(B)	増減率
事業収益	1,516,514	1,596,770	△ 80,256	△ 5.0%
①営業収益	911,227	905,083	6,144	0.7%
うち運送収益	892,890	886,990	5,900	0.7%
うち運送雑収益	18,337	18,093	244	1.3%
②営業外収益	605,287	691,687	△ 86,400	△ 12.5%
うち一般会計補助金	376,000	398,369	△ 22,369	△ 5.6%
うち補助金	138,504	197,615	△ 59,111	△ 29.9%
うち長期前受金戻入	78,288	81,504	△ 3,216	△ 3.9%
事業費	1,827,902	1,750,075	77,827	4.4%
③営業費用	1,813,456	1,729,659	83,797	4.8%
うち人件費	1,200,189	1,063,825	136,364	12.8%
うち物件費	387,854	382,188	5,666	1.5%
うち減価償却費	209,327	265,029	△ 55,702	△ 21.0%
④営業外費用	14,446	20,416	△ 5,970	△ 29.2%
営業損益(①－③)	△ 902,229	△ 824,576	△ 77,653	9.4%
経常損益(①＋②－③－④)	△ 311,388	△ 153,305	△ 158,083	103.1%
純損益(事業収益－事業費)	△ 311,388	△ 153,305	△ 158,083	103.1%
未処理欠損金	△ 1,128,375	△ 816,987	△ 311,388	38.1%

「決算状況の推移」

八戸市自動車運送事業

(%) は、対前年度比

消費税抜き(単位：千円)

区 分	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
1 事業収益	(96.9%) 1,499,291	(96.3%) 1,444,448	(101.9%) 1,471,841	(105.9%) 1,558,129	(102.5%) 1,596,770	(95.0%) 1,516,514
2 事業費	(103.6%) 1,616,541	(104.1%) 1,682,176	(106.0%) 1,783,452	(95.8%) 1,708,551	(102.4%) 1,750,075	(104.4%) 1,827,902
3 純損益	△ 117,250	△ 237,728	△ 311,611	△ 150,422	△ 153,305	△ 311,388
4 累積損益	36,078	△ 201,650	△ 513,261	△ 663,682	△ 816,987	△ 1,128,375
5 一般会計補助金	(93.5%) 340,000	(110.6%) 376,000	(106.4%) 399,883	(94.0%) 376,000	(105.9%) 398,369	(94.4%) 376,000
6 補助金	(91.9%) 1,811	(1135.2%) 20,558	(193.1%) 39,688	(358.1%) 142,138	(139.0%) 197,615	(70.1%) 138,504
7 営業収益	(97.3%) 1,062,555	(89.7%) 953,350	(98.9%) 942,532	(99.2%) 935,014	(96.8%) 905,083	(100.7%) 911,227
8 資金の不足額	0	0	0	0	0	0
9 ※ 資金不足比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※地方公共団体の財政の健全化に関する法律による資金不足比率

公営企業の資金不足を、公営企業（自動車運送事業）の事業規模である営業収益の規模と比較して指標化し、経営状況の健全度を示すもので、数値が低いほど健全とされる。

$$\text{資金不足比率（％）} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{営業収益}} \times 100$$

八戸市自動車運送事業経営戦略の改定について

1. 概要

「経営戦略」は、各公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画であり、市交通部では令和元年度に計画期間10年の経営戦略を策定した。

策定から6年が経過し、この間に、コロナ禍を契機としたバス利用者の減少や燃料費などの価格高騰、2024年問題を背景とした運転士不足、令和6年10月1日の運賃改定など、事業を取り巻く環境が大きく変化し、当該経営戦略には見込まれていない事項が発生しており、また、国では全ての公営企業において経営戦略の見直しを令和7年度までに完了するよう推進していることから、今般、経営戦略を改定したもの。

2. これまでの経過

時 期	内 容
令和7年5月21日	建設企業協議会にて改定案について説明
令和7年6月2日～ 令和7年7月1日	パブリックコメントの実施 ・意見提出1件（意見項目4件）
令和7年7月28日	経営戦略改定

3. 経営戦略の公表

令和7年8月21日に八戸市営バスホームページで公表

八戸市自動車運送事業経営戦略（改定案）に係るパブリックコメントの実施結果について

1. 実施期間 令和7年6月2日（月）～令和7年7月1日（火）の30日間
2. 意見提出件数 1件4項目
3. ご意見の概要及びご意見に対する考え方

No.	意見内容（概要）	市の考え方
1	運転士の確保について／運転士の勤務形態について ・現在は早番、中休、遅番ダイヤのシフト制で不規則であるため運転士を目指す方の大きなハードルになっている可能性がある。 ・早番固定や遅番固定などの時間帯を固定した勤務形態を選択できるようにするのはどうか。 ・実働時間や拘束時間が通常より少ないダイヤを設定し、短時間勤務を選択できるようにしてはどうか。 ・以上のようにすることで、運転士を目指したい方のハードルを少しでも下げることができると思う。それが結果として運転士の採用増につながって欲しい。	運転士の確保に向けて、いただいたご意見を参考に、具体的な方策等を検討していきます。
2	バス車両の更新について／車両の配車・導入について ・朝夕の通勤通学時間帯は利用者が集中しており、もし路線の減便が行われた場合、1台当たりの乗車人数が増加し、乗せ残しが発生する可能性がある。その場合、他の交通手段に流れ、利用者数の減少に拍車がかかる。 ・そこで今後のバス車両は大型車を中心に導入していくべきだと思う。 ・2024年問題により続行便を頻繁に出すことは困難である。 ・一方で種差線は利用者が少なく、朝以外は数名しか乗車しないことが多いため、コミュニティバスで採用されている小型車を種差線専用として導入し利用に見合った運行をしていくべきと思う。	バス車両の更新にあたっては、バス利用状況を踏まえて導入車両を検討していきます。
3	運送収益について／福祉乗車証利用者の運賃負担について ・今後運送収益を確保するためには、福祉乗車証利用者の運賃負担が必要だと思う。 ・現状では年間利用料を負担するだけで、乗車時は無料となっているが、他の公営バス事業者の割引制度を調べてみると、障がい者は運賃を無料とするところが多いが、高齢者は運賃を無料としているところは少なく、運賃を一部負担してもらうところが多くなっている。ただし、年間の利用料がないため運賃を無料としていない可能性はある。 ・ほぼえみ乗車証は今後も無料でもいいと思うが、はつらつ乗車証は年間の利用料を高くするか、もしくは年間の利用料を廃止する代わりに1乗車100円程度の運賃を支払ってもらう制度にするなどの対策が必要だと思う。	運賃水準を検討する中で、いただいたご意見を参考に、具体的な方策等を市関係課とともに検討していきます。
4	その他意見／金額式定期券の導入について ・金額式定期券では購入した運賃設定を超える区間まで乗車した場合に差額分を支払うもの。さらにバス事業者によっては、他社のバスでも乗車可能なところもある。 ・例えば本八戸駅から市民病院まで乗車する際に市営もしくは南部バスのどちらでも乗車することができ、待ち時間の短縮やバス車内の混雑の解消につながる。 ・また、中心街で乗り換える場合、区間運賃の高い方の金額で購入すれば定期券を複数持つ必要がなくなる。 ・このようにメリットが複数あり、全国のパス事業者でも導入するところが増えてきているので、ぜひ検討していただきたい。 ・八戸駅から中心街までの区間は共通定期券として購入できるが、金額式定期が導入されるのであれば共通定期券は廃止にしていいたいと思う。	運賃水準を検討する中で、いただいたご意見を参考に、市内を運行するバス事業者等の関係機関とともに検討していきます。

八戸市営バス一部路線の一日無料運行の実施について

1. 概要

令和 6 年 10 月 1 日の運賃改定から約 1 年が経過するにあたり、これまで市営バスの運行を支えていただいた皆様への感謝の気持ちを伝えるとともに、より多くの方々に市営バスに親しんでいただき、今後の利用促進を図るため、9 月に開催される市内イベントにあわせ、一部路線の無料運行を実施するもの。

2. 実施予定日

令和 7 年 9 月 28 日(日)

3. 無料運行する路線

- (1)市内循環線(運賃 190 円均一)
- (2)種差海岸遊覧バス(うみねこ号)(運賃 初乗り 150 円、上限 200 円)
- (3)日曜朝市循環バス(いさば号)(運賃 初乗り 150 円、上限 200 円)

※当日開催予定のイベント

- ・サンフェス HACHINOHE2025
- ・本のまち八戸ブックフェス 2025
- ・第 4 回はちのへホコテン

八戸圏域地域公共交通活性化協議会が出展し、バスに関するイベントを開催予定

4. 周知

- ・広報はちのへ 9 月号(8/20 発行)、交通部ホームページに掲載
- ・バス車内、停留所等に案内掲示